

第2回 総合的な交通のあり方検討会議 議事要旨

日 時：令和5年1月12日（木） 13：30～14：30

出席者：別紙のとおり

場所：大阪府庁別館7階会議室（公園課 分室）

議事1. とりまとめ案について、議事2. とりまとめ結果の活用について

- ・事務局より、資料1～3により、とりまとめ案およびとりまとめ結果の活用について説明
- ・質疑応答・意見は以下のとおり。

（大阪市建設局道路河川部長）

- 30年先を見据えた話なので、どのように変化していくかわからない中で良くまとめたと思う。色々な場面で事業計画を策定・改訂していく中で、今回描いた将来の姿が1つの指針としての役割を果たすものと期待できる。一方で、30年先この様になるかわからない中で、言葉を絞り込んでしまっているが、今後、違っていたのかどうかが見えてきた段階で表現の見直し等考えても良いのではないかと。また、P16も30年後の姿をイメージするために資料を集めたと思うが、これについては活用価値があると思う。これについても、同様に見直し等を考えてもよいのではないかと。

（事務局）

- 30年先が見えない中で、事業者、有識者も含めて意見をいただき、また、P16に示した資料も見ながら検討してきた。2025年の万博を機に技術の進展がどうなるかを見ながら、必要なタイミングで適宜アップデートしてはどうかという議論をしているところ。

（大阪府都市整備部事業調整室長）

- P1に「関係者で同じ方向を向いて」とあるが、必ずしもそうなれるとは限らないと思う。そうした中で、この計画をどの様に扱っていくのか。また、P15に記載された課題解決に向けて、どう動いていくのか、P16の表をどう管理していくのか。

（事務局）

- 関係者との意見交換の中で、大きな方向性にズレは生じていないことは確認できたと認識している。今後は関係者に周知して、同じ方向に進んでいけるよう、話をしていきたいので、皆さんにもご協力いただきたい。実現に向けては、事業者に対して周知していくこと、また、必要なタイミングで適宜アップデートしていく必要があると考えている。

（大阪府都市整備部事業調整室長）

- 「事業者任せ」という誤解を生まないよう、表現を見直した方がいいのではないかと。

（事務局）

- 対応します。

(大阪府都市整備部道路室長)

- 先が見えない中で良くまとめたと思う。
- P15 で、各セクションが計画を策定する等のアクションを起こすときの参考にして欲しいということであれば、そういったことを明記しておいた方が誤解を生まず良いと思う。
- 「関係者がそれぞれの担うべき役割を全うする」という表現は、義務的なイメージになるので、表現を工夫してほしい。
- 時代の流れに合わせて見直すということもどこかに示しておいた方が良いと思う。

(事務局)

- 対応します。

(大阪市建設局企画部長)

- 本稿は、色々な人が色々な捉え方をすると思うので、これまでの議論であったように、本稿の位置づけを明確にしておいてもらいたい。
- P12 の「事故ゼロ」のフレーズについて、2050 年に府内は事故がなくなると言う人も出てくる可能性がある。P17 のとおり、第 5 期国土交通省技術基本計画には「事故ゼロ」と書かれているようだが、交通管理者とも調整して、記載してよいか再考してはどうか。自動運転車両で車の事故は無くなるかもしれないが、自転車と歩行者の事故は無くならないかもしれないので。

(事務局)

- 再考します。

(大阪府スマートシティ戦略部戦略推進室長)

- P15 「新たなイノベーションを生み出すためには、規制緩和や実証実験のためのフィールドの提供、産官学が連携したプラットフォームの構築等の環境を整える必要がある」について、プラットフォームなど既にあるが、この表現だと今は何もなくて新たに作っていかないといけないようなイメージを与えるので表現を検討してほしい。

(事務局)

- 対応します。

(大阪市計画調整局交通政策室長)

- 参考資料の P10 鉄道ネットワークの整備が、大阪府資料を出典されているが、中央線の延伸など、事業中路線は書いていただきたい。

(大阪市都市交通局鉄道ネットワーク企画担当課長代理)

- 参考資料の P28 の AI オンデマンド交通について、最新の取り組みがある。情報提供させ

ていただくので差し替えてもらいたい。

(事務局)

○対応します。

(事務局)

○本日いただいたご意見およびその他、構成員や関係部局からの指摘事項があれば、それらを反映した資料をメール等で共有し、最終のとりまとめ案とさせていただきます。

議事3. その他

・意見等なし